

## 2021年5月2日 佐土原キリスト教会礼拝説教

聖書箇所：ヨハネ福音書 17 章 20～26 節

説教題：共におらせて下さい

突然ですが、私の父は、私がカナダに行って1年半が過ぎた頃、突然、亡くなりました。父が亡くなるということは、全く予想していませんでしたので、知らせを聞いた時、茫然としました。「頭をハンマーで殴られたような」という言葉を初めて理解しました。日本に帰って来て、冷たくなっている父を見て、父の死の現実が迫って来ました。「世の中にこんなに悲しいことがあったのか」と思いました。葬儀等を済ませてカナダに帰った時、私は教会の礼拝が待ち遠しくてたまらなかったことを覚えています。礼拝に出て「教会の交わりは良いなー」と本当に慰められました。教会とは、慰めの共同体だと思います。世にはない特別の共同体、そういう共同体に属して生活が出来れば、何と幸いなことでしょうか。

さて、私達は「最後の晚餐」におけるイエス様の祈りを学んで来ました。祈りの中でイエス様は、御自分の働きのために祈られ、次に弟子達のために祈られました。そして最後に「彼ら(弟子達)の言葉によってわたしを信じる人々」(20)、つまり、やがて生まれてくる信者(私達)のために祈られたのです。今日の箇所は、教会、そして信者のための祈りを記す箇所です。ここでイエス様は、何を祈っておられるのでしょうか。逆に言うと私達は、何を祈られているのでしょうか。2つのことを学びます。

### 1：私達は祈られている

イエス様が何を祈って下さったのか、それを学ぶ前に確認しておきたいことがあります。それは、私達はイエス様に祈られている者である、ということです。私達は今も祈られて在ります。そのことの恵みを思います。

私は、祈られて在る、祈って頂いているということを中心に感謝しています。先日もある方から「先生のことをお祈りしていますよ」と言って頂きました。私達は、お互いの祈りによって、神様の守りと、様々な恵みを頂いていると思うのです。「守られた！」と実感することが、何度もあります。カナダで入院した時のことを良くお話ししますが、私は、なぜ元気になったのか、今でも不思議です。私の置かれた状況は、特に何も変わったわけではないのです。ただ、神様が触れて下さり、希望と平安を与えられたのです。皆さんに祈って頂いていたと思います。そして、イエス様が祈って下さっていたということを改めて思うのです。イエス様は大失敗をするペテロに言われました。「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ルカ 22:32)。ペテロは、この祈りによって立ち上がって行くのです。いずれにしても、私達は「私のために祈っている人はいない」と思っはいけないと思います。教会の仲間が祈っています。誰よりも、イエス様が祈って下さっています。イエス様の祈りによって、私達は守られているのです。私達は、イエス様に祈られて在る者なのです。そのことを、まず確認したいと思います。

### 2：祈りの課題は何か

では、イエス様の祈りの中心的なテーマは何だったのでしょうか。それは、私達が主と共にいることが出来るように、ということです。そのことについて、2つの祈りをして下さっています。

### 1) 地において主と共にいることができるように

イエス様は 21 節で「彼らもわたしたちにおるようになるためです」(21)と祈られました。リビングバイブルは「彼らをもわたしたちのうちにおらせてください」(21・LB)と訳します。そして、私達が主と共にいる、その具体的な在り方を祈って下さっています。それは「彼らがみな一つとなるためです」(21)という祈りです。つまり、地に在って私達は、1つとなることによって、神様の不思議な臨在の中に居ることが出来るのです。

「みな一つになる」とはどういうことでしょうか。それは「信仰者が一致する」ということです。これからイエス様が十字架に向かう時に、イエス様を捨てて逃げて行く弟子達です。しかし、その弟子達がやがて立ち上がり、イエス様を宣べ伝え、イエス様を信じる群れ、教会が造られて行くということを、イエスは信じておられたのです。その信頼が、祈りが、弟子達を立ち上がらせて行くのです。そして実際、弟子達の宣教によって教会が形成されて行きます。しかし教会が形成され、成長して行くにつれて、一致を保つことが難しくなって行くことも、イエス様はご存知でした。イエス様が求めておられたのは、組織的なガチガチした、そんな一致ではありません。それは、愛の共同体としての教会の一致です。21 節をもう一度見ます。「父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです」(21)。イエス様と父なる神様の間にある一体性、一致、愛の交わり、そのような素晴らしい交わりを、そして一致を、教会が造り出せるように、イエス様は祈られたのです。

そのような交わりの中でこそ、私達は癒され、励まされ、力をもらうことが出来るからです。それだけではない。そのような交わりの中でこそ、私達は、神様に触れるような経験を持つことが出来るからです。主と共に居るような恵みを経験出来るからです。私が自分の罪を示され、本当に落ち込んでいた時、私は教会の人達を通して神の赦しを感じて、「赦された者」として生き直す、そんな恵みに与ることが出来ました。教会の中に、そのような愛の交わり、一致があれば、教会で、1人びとりが色々な素晴らしい霊的な経験をする事が出来るのではないのでしょうか。

しかし、一教会のことを考えても、そのような素晴らしい一致を造り出すことは難しいのです。私達は互いに違う存在です。考え方も、性格も、生きて来た道も、経験も、みんな違います。その違う私達が、話し合いを重ねて「1つになりましょう」と言っても、限界があるのです。私達は、その意味で弱いのです。だから、イエス様は祈って下さったのです。そして、そのイエス様の祈りによって、教会は、私達の欠けにも拘わらず、ここまで守られて来ているのではないのでしょうか。そしてそれは、イエス様の祈りの故に、これからも守られて行くのです。私達は、その交わりの中で、様々な慰めや、励ましや、幸いを経験するのではないのでしょうか。

その時、大切なことは、私達が神様を見上げることです。私達がお互いを見ても、一致は難しいのです。だから神様という同じ方向を見ることによって一致を目指すのです。クリスマスにお話ししましたが、第一次大戦の時、イギリス軍の兵士とドイツ軍の兵士が、突然、休戦を経験しました。両方の兵士達が、イエス様のことを考えた時、戦いを止めたのです。一時的なものでし

たが、彼らの心が1つになったのです。私達は、神様によって、イエス様によって、一致させられて行くのです。

さてしかし、イエス様は「彼らがみな一つとなるためです」の後で「そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです」(21)と祈っておられます。つまり一致は「一致した素晴らしい交わりを作ること、信仰者がその素晴らしい交わりを経験すること」と共に、その交わりを通して、イエス様が神様から遣わされて世に来たということを世の人々が信じるためだと言われるのです。

ある人が言いました。「人間にとって分裂することが一致することよりも自然で、共に集まるより飛び散る方が自然だ」。もし人間の自然のあり方が「一つになるのが(一致が)難しい」ということであれば、私達が教会の中で、年齢も、性格も、背景も、その違いも越えて1つになれば、一致を生み出すことが出来れば、世の人々は、そこに尋常でないもの、人知を越えた神の御手を見て行く、イエスの名の下に集まる人々の中に、神が働いておられるのを見て行くのではないのでしょうか。そのようにして、神様の恵みを宣べ伝えることが出来るのではないのでしょうか。

熊本県に「お坊さん夫婦」から「クリスチャン夫婦」になった御夫妻がいます。奥さんがある日、駅前で配られていた特別伝道集会のチラシを見て教会に行きました。話はよく分かりませんが、奥さんの心をとらえて離さなかったものがありました。それは、教会の中にあつた何とも言えない和でした。老若男女、様々な人がいるのに、どうしてこれほど仲良くしていられるのか、不思議でした。それは自分の寺の現実とあまりにかけ離れたものでした。教会のこの美しい和と一致に見せられて、奥さんは翌日も教会に出かけ、そうしているうちに信仰を告白するに至りました。お寺の奥さんがキリスト教信者になったのですから、後が大変でした。御主人(お坊さん)は「信仰を捨てるように」と奥さんを責め立てました。しかし、それが繰り返されるうちに、お坊さんは、奥さんの中に本当の信仰があることが少しずつ見えて来ました。やがて御主人も真の神様を知るようになって、二人して寺を出られたのだそうです。

この方々のことを考える時、教会が一つの群として一致を保つことの大切さ、またその力を教えられます。だからこそイエス様は「一つになるように」と祈られたのです。それが、世に対する大きな証だからです。

## 2) 後の世で主と共にいることができるように

イエスは24節でこう祈っておられます。「父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです」(24)。イエス様が、地に降って来られる前に、天で持っておられた栄光、それを「彼ら(私達)が見る」とはどういうことかということ、それは、私達がやがて天に帰った時、イエス様を、栄光のイエス様として拝するという事です。私達が天上でイエス様と一緒にいることが出来るように、とイエス様が祈って下さっているということです。イエス様は「ヨハネ福音書 14 章 1~3 節」でこう言っておられます。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに

言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです」(ヨハネ 14:1~3)。私達は天で、イエス様と共におらせて頂くことになるのです。ここでイエス様がそう祈って下さっているのです。ある聖書は24節を「父よ。あなたがわたしに与えて下さった者達を、わたしのいるところにもおらせるように致します」(24)と訳しているそうです。イエス様がそう言われたのであるなら、なおさら確かなこととなります。私達のゴールは、この地上にはありません。私達が信仰者として生きた軌跡、経験した1つ1つの事柄、それらの全ての報い、それらは天で与えられるものなのです。

もちろん申し上げた通り、地に在っても、教会を通して、あるいは個人的にも、私達はイエス様と共に居ることが出来ます。先日、ある先生と電話でお話ししました。話の中でその先生が言われました。「失敗したり、心配したり、悩んだり、色々ありますが、イエス様がちゃんとして下さいます」。イエス様が、私達を主の許におらせて下さるからだと思います。感謝なことです。しかし、そのような地上の歩みを終えて、天に帰った時、天上でイエス様の素晴らしい栄光を拝するのです。その時、地上で経験した様々なことを思い出しながら、そこにも神の御手があったことを知り、感謝するのではないのでしょうか。私達には、地上では考えも及ばないような栄光を見、また栄光に与る時が来るのです。

#### 4 : 終わりに

今日、イエス様の祈りについて見てきました。イエス様は最後に言われました。「わたしは彼らにあなたの御名を…これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです」(26)。これは、イエス様が私達と共に歩き、神の助けを授けて下さるという約束の言葉です。イエス様に祈られている者として、神の助けを経験しながら、信仰の歩みを続けて行きましょう。そして、願わくは、私達も良い交わりを築いて行きましょう。